

令和8年秋に全国育樹祭を開催します

開催概要

目的・内容

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及するため、毎年秋季に行われます。本県では、平成23年に開催した第62回全国植樹祭で当時の天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を、令和8年に皇族殿下がお手入れされる行事を行います。また、各種表彰等を行う式典行事や全国みどりの少年団活動発表大会等を併せて行います。

開催理念

- ①守り、次の世代へつなぐ！
- ②育み、木を活かす！
- ③共に考え、行動する！

シンボルマーク「キノピー」
第62回全国植樹祭のシンボルマークの「キノピー」を引き継ぎ起用し、スコップとコンテナ苗を持たせた全国育樹祭用のデザインになりました。



平成23年開催の全国植樹祭の様子



主な行事内容・場所

行事	場所	内容
お手入れ 式典	新庄総合公園(田辺市) 白浜会館(白浜町)	皇族殿下によるお手植え樹木への枝打ちや施肥 皇族殿下のおことば、緑化功労者等の表彰、大会宣言など

今年秋に第49回全国育樹祭のプレイベントとして「国民参加の森林づくりシンポジウム」を開催予定！



協賛金等を募集しています



- ◆目的:本県の美しい自然や歴史・文化などの多彩な魅力を伝え、県民の皆様の心のこもったおもてなしでお迎えることにより、参加される方々が「和歌山に来て良かった」と思ってもらえる育樹祭とするため
- ◆協賛金等の用途:全国育樹祭の広報活動、参加者への配布物、会場整備および行事運営等に充当
- ◆募集期間:令和8年5月31日(日)まで
- ◆協賛の種類:金銭協賛、物品協賛、広報・PR協賛、その他協賛
- ◆申込方法等:申込方法や協賛の特典など詳しくはこちら→



第49回全国育樹祭の最新情報は
下記をご確認ください！

LINE↓



HP↓



X↓



第49回全国育樹祭2026 わかやま

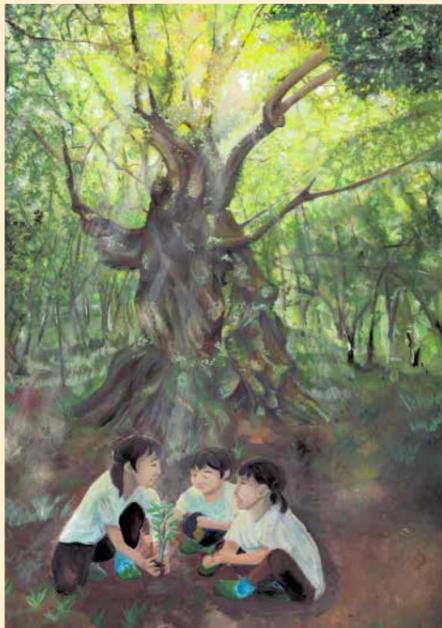
育てて使おう 地球に優しい 緑の資源

ぜんこくいくじゅさいいしんしつ
問 全国育樹祭推進室 ☎073-441-2579 FAX073-432-5850

大会テーマ

『育てて使おう 地球に優しい 緑の資源』

ポスター原画



山や森林から生産されるさまざまな恵みのうち、木材以外のものを「特用林産物」といいます。きのこ類や山菜、ブドウハゼ(木ろう)、花木枝物、木炭など、これらはすべて特用林産物です。

植林して出荷までに長い年月を要する林業を営む人々にとって特用林産物は、短期的な収入源として重要な役割を担ってきました。また、紀州備長炭など、それぞれの地域で文化として根付いた産品も多くあります。

地域の活性化を支援

県では、特用林産物を活用し、担い手の確保や山村地域の振興に取り組み、山村地域における特用林産物の生産活動を支援しています。

支援事業や特用林産物について詳しくはこちら



特用林産物を活用して山村地域を活性化

とくようりんさんぶつ

かつよう

さんそんちいき

かつせいか

いろいろな特用林産物

●紀州備長炭(主産地:紀中、紀南地域)

生産技術は本県の無形民俗文化財に指定されています。県木のウバメガシ等を循環利用して作られ、安定した高い火力が長時間続くため、焼き物料理に重宝されます。



●サカキ(主産地:田辺市、日高川町)

古くから神事に用います。収穫したサカキを結束して作る「くくり(小花)」は、和歌山県発祥といわれており、高い技術が必要です。



●原木シイタケ(主産地:県内各地)

原木はクヌギやコナラを使用し、乾シイタケや生シイタケとして出荷されます。使用後の原木は堆肥として循環利用されます。



●コウヤマキ(主産地:伊都地域)

仏前に供える枝物として用いられます。高野山に名前の由来を持ち、古くから伊都地域で苗から生産されています。



●イタドリ(主産地:紀中、紀南地域)

春先に出るタケノコ状の若芽をあく抜きして食べます。お茶やドレッシングなどの商品も開発されています。「こんぱち」という別名は、節分時期に火にくべて音を鳴らしたことが名前の由来と伝わっています。



●ブドウハゼ(主産地:海草、有田地域)

実を搾って出来る木ろうは、和ロウソクの原材料となり、かつて本県は全国でも有数の生産地でした。近年は生産者や高校生などの活躍もあり、新しい利用法の開発等に注目が集まっています。



わさびを地域の産業に



平井わさび園
平井 健さん

真妻わさびは、日本全国で流通するわさびの最高級品種で、実は伊南町の真妻地域が発祥です。この地域はかつて盛んにわさびを栽培していましたが、近年は生産者が減少し、専業農家は県内で当園のみと聞いています。それでも、わさび栽培の伝統を絶やしてはいけなく考え、産業の復興に取り組んでいます。生産者の仲間を増やすべく、県林業試験場と連携して新たな栽培方法の開発を進めています。

また、先進地に何度も足を運び、栽培技術の習得に努めてきました。県の支援を活用してわさび田の改良を行い、良い品質のわさびをムラなく栽培することにも成功しています。

今後も、歴史あるわさび産業の復興に向けて、取り組んでいきます。

